

□議員名：伊場 勇

## 1 Wi-Fi 環境の整備について

論点	本市の公共施設への Wi-Fi 環境の整備状況はどうか。
回答	これまで検討はしていたが、本市では公共施設の Wi-Fi 環境の整備には至っていない。

論点	なぜ今まで整備できなかったのか。
回答	防災、観光等を目的とした公衆無線 LAN、Wi-Fi 整備の必要性は認識しつつも、庁内で優位性を踏まえた協議が横展開ができず、それぞれの個別の目的に応じた事業としての視点から、費用対効果の点で、事業推進の優先度がこれまで上がらなかった。

論点	国の「防災等に資する Wi-Fi 環境の整備計画」をどのように捉えているか。
回答	この計画を推進することで、災害時に必要な情報伝達手段を確保するとともに、平時では観光関連情報の収集、住民サービスの向上により利便性の向上を図るものと認識しており、本市においては、この平成 29 年度に検討したが、費用対効果の面で断念した。

論点	災害用統一 SSID（ファイブゼロジャパン）に対する認識はどうか。
回答	特に大災害時使用することで、規定のスポット ID を検索する手間を省き、通信ネットワークのふくそうが起るのを防ぎ、Wi-Fi スポットを、契約者や登録者以外にも無料開放し、安否確認や情報収集に役立つ目的で提供できるものと考えている。

論点	Wi-Fi 環境整備の検討したときのインシヤルコスト、ランニングコストについてはどうか。
回答	検討した平成 29 年当時、4 か所に設定した場合、インシヤルコストで約 1,800 万円、ランニングコストで年間 200 万円であった。現在はかなり安くなっているのではないかと考える。

論点	全小中学校に整備した通信ネットワークを災害時に活用してはどうか。
----	----------------------------------

回答	災害に対応することも可能となっているが、実際の部品等を見ておらず、自動的に使えるものではなく、授業への影響もふまえ慎重な協議が必要である。
----	---

論点	市役所への Wi-Fi 環境の導入効果についてはどうか。
回答	ロビーなどで調べものを行うなど、比較的短時間の利用が想定をされ、市民の憩いの場やコミュニケーションの場としての市民サービスの向上につながるものとする。課題として、Wi-Fi 利用のみを目的とした来庁者が、他の方々の庁舎利用の妨げとなる可能性がある。

論点	図書館への Wi-Fi 環境の導入効果についてどうか。
回答	館内に設置している情報端末だけでなく、個人所有の端末で情報検索や図書資料検索ができるようになり、来館者の利便性が向上すると考え、実際の運用方法など総合的に検討する必要があると考えている。

論点	公民館への Wi-Fi 環境の導入効果についてはどうか。
回答	公民館講座や研修会開催時に ICT 機器を活用した事業が可能となり個人所有の端末などを持ち込み、インターネット上のソフトや動画などをその場で活用でき、オンライン会議に利用するなど、学びや研修の方法や内容が多様化し、充実することが考えられる。

論点	市役所への Wi-Fi 環境導入のインシヤルコスト、ランニングコストはどうか。
回答	平成 29 年度に検討した当時、ライセンス料込みで、インシヤルコスト約 340 万円、ランニングコスト年間約 50 万円と認識している。

論点	Wi-Fi 環境導入のリスク対策についてはどうか。
回答	無線 LAN を安全に利用するため、通信の盗聴、傍受、不正アクセス、端末情報の詐取など様々なリスクの対策として、認証サーバーを用いた利用者を限定する等に加え国が示すセキュリティ対策、工事、安全な無線 LAN 環境の構築が必要と考える。

論点	Wi-Fi環境を導入する予定はあるか
回答	現在地方公共団体がWi-Fiを整備し、活用する割合が増しており、住民サービスの向上の期待度が高くなる中、人口減少等を見据えたデジタル社会の構築に向けたスマート自治体の推進の一環として、デジタル化の推進に力を傾注するため、組織の充実を図るとともに、全庁体制で来年度から積極的に協議を進めていく。